

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 11月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	0171300197		
法人名	有限会社 恵コーポレーション		
事業所名	グループホーム 紅葉館		
所在地	北海道北広島市虹ヶ丘8丁目2番11号 (電話) 011-375-5454		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成20年11月26日

【情報提供票より】 (平成20年 11月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 18年 1月 12日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	20 人 常勤 18人, 非常勤 2人, 常勤換算 14.8人

(2) 建物概要

建物構造	RC (鉄筋コンクリート) 造り	
	2階建ての	1.2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費: 20,000円 暖房費 (11~3月): 9,000円
敷金	<u>有</u> (48,000 円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,300 円	

(4) 利用者の概要 (11月 5日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	1 名	要介護2	8 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.11 歳	最低 73 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新札幌聖陵ホスピタル・新札幌ウィメンズクリニック・平岡公園こじま歯科他
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療依存度の高い利用者を受け入れ、開設3年目を迎える「グループホーム 紅葉館」は、当事業所の運営グループ内に複数の病院の協力があり、利用者の安定した暮らしを提供している。今年、就任した看護師でもある管理者は、運営者と一緒に広い居間や浴室などに福祉用具などを整備し、利用者の自立に向けた生活を支えている。管理者は認知症を併せ持つ利用者が安心して過ごせるよう、ケアと環境づくりを職員との共有を図りながら取り組んでいる。季節ごとに花見、紅葉見物、外食などに出かけ、戸外の空気に触れるように配慮している。ホーム内では職員がレクリエーションや工芸など、毎日が楽しく過ごせるように種々の遊びなどを工夫し支えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の外部評価で課題にあげた、運営推進会議を充実させ、管理栄養士によるカロリー計算を献立表に載せ、受付簿の工夫など、積極的に取り組んでいる。防災訓練では、さらに夜間を想定した訓練を検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価は職員が書けるところを記入し、それらを管理者がまとめた。職員は記載する中で課題を見つけケアに生かしている。次回の自己評価では、さらに時間をかけて取り組み、全職員で評価内容の共通認識を高めたいと考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催している。会議では運営の状況、火災訓練実施の報告や介護情報などの提供、危機管理の準備についても意見交換をしている。運営推進会議を活用し、町内会・行政・消防署との連携を密にしている。会議には市の高齢者支援課からも参加しており、運営者、管理者は市の担当者に相談や要望を伝え、迅速に解決している。利用者の利益が守られるように行政の担当者と一緒に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	入居時に外部の苦情窓口を紹介し、重要事項にもチャート図で分かりやすいように説明してある。家族の来訪時に意見や要望を聞くようにし、意見などがあつた場合はフロア会議に取り上げ改善に取り組んでいる。家族の意見を積極的に受けるべく、行事などの機会を捉えて率直な意見を聴く工夫を考えているところである。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	運営推進会議の委員や町内会からの情報をもとに、地域の文化祭などに参加している。ホームの「紅葉館夏まつり」には地域に案内をして住民との交流に努めている。地域イベントのフラワーフェスティバルへの参加、図書館貸出しの利用、保育所の児童との交流など、今後は、地域の人と交流する機会を積極的に進めたいと考えている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の自立的な暮らしを支え、共同生活での安らぎとなる場を提供し、地域の人と積極的な交流を図る、との内容を理念に掲げ、それに基づいての支援がなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は常に意識できるようにホーム内の随所に掲示してある。各フロア会議では、日々のケアが理念に沿って行われているかを確認し共有している。理念が運営の道標となるよう、唱和から始める試みも考えているところである。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の区割りで、近隣は他町内会に所属している。そのため町内会での身近な交流は難しいが、運営推進会議の委員や町内会からの情報をもとに、地域の文化祭などに参加している。ホームの「紅葉館夏まつり」には地域に案内をして住民との交流に努めている。	○	地域イベントのフラワーフェスティバルへの参加、図書館貸出しの利用、保育所の児童との交流など、盛り沢山の構想があるので、利用者が地域の人と交流する機会を作ることに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員が書けるところを記入し、それらを管理者がまとめた。職員は記載する中で課題を見つけケアに生かしている。管理者は次回の自己評価では、さらに時間をかけて取り組み、全職員で評価内容の共通認識を高めたいと考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催している。会議では運営の状況、火災訓練実施の報告や介護情報などを提供し充実を図っている。危機管理の準備についても意見交換をしている。運営推進会議を活用し、町内会・行政・消防署との連携を密にしており、また、民生委員は気軽に来訪し協力もある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政からの関わりが積極的なので、常に市の担当者や接触する機会が多い。運営者、管理者は相談や要望を担当者に伝え、迅速に解決している。また、担当者の訪問もあり、利用者の利益が守られるよう一緒に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行の「虹の橋便り」に、行事や利用者の暮らしぶりや新職員の挨拶などを載せ報告している。家族の来訪は多く、その際にも伝えているが、必要な時には電話で連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に外部の苦情窓口を紹介し、重要事項にもチャート図で分かりやすいように説明してある。家族の来訪時に意見や要望を聞くようにし、意見などがあつた場合はフロア会議に取り上げ改善に取り組んでいる。	○	家族の意見を積極的に受けたい意向もあるので、行事などの機会を捉え、家族のみによる話し合いの場を設けて率直な意見を聴く工夫も期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職などは個人の事情もあり、家族から聞かれた場合には説明をしている。礼儀からも今後はなるべく事前に報告したいと考えている。利用者には辞める事前に職員が挨拶をしており、他職員の対応でダメージに配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年間に学ぶ、必要な研修を計画し、毎月のフロア会議で管理者が指導し育成に努めている。運営者は研修情報を流し、「認知症介護実践研修」や業務に必要な研修は会社負担で参加させ、職員が自主的に参加できるように学ぶ機会を作っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市の「グループホーム管理者会」に積極的に参加し情報交換や交流をしている。この会議には行政担当者も参加しており、主にホームの運営についての情報交換のため、職員間の交流はない。	○	今後、この会議に研修会などを企画し、職員も参加する中で同業者との交流や研修などでサービスの質の向上に向けた取り組みを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	緊急に入居する以外は、事前に本人の見学を勧めている。本人の様子を把握し希望に対応している。入居後は利用者の不安を受け止め安心して過ごせるように関わり、レクリエーションや簡単な作業などを通して入居者の輪に溶け込むような支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は単にケアに従事することを避け、利用者と共に生活することを大切にしている。長年かけて得た知識は豊富で学ぶことが多い。ときには利用者に励まされ、職員は笑顔を絶やさないようにして、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のやりたいことを聞き出し、その意向を取り上げている。困難な場合は表情や仕草から把握に努めている。センター方式を使用し、家族と職員が具体的に記入する中で本人が理解でき、検討しやすくなっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、家族、本人から要望や意向を聞き取り、現場の職員の情報を集約し、主治医の意見書を取り入れ、計画作成担当者が原案を作成する。これをカンファレンスで討議して必要な修正を加えて、管理者が成案とし、家族の承認を得て実行に移す。必要に応じて利用者本人にも説明をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、およそ3ヶ月をメドに行い、毎月確認をする。健康状態などに変化が生じたときは、随時本人、家族、必要な関係者と話し合って適宜計画の修正を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じて通院介助も行う。医療連携を活かして点滴等の処置を事業所で行うことによって、入院回避に努めている。管理者が看護師であるため、幅広い医療対応で利用者の便宜を図っている。自宅訪問や温泉入浴の希望にも添っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の契約により、かかりつけ医は事業所の協力医療機関に切り替える。他の医療機関を希望する場合はそれを尊重するが、通院は原則として家族対応となる。その場合でも事業所は、当該医療機関と緊密に連携しながら受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族からの要請に応じて、なるべく早い段階から、終末期の対応について方針を話し合っている。事業所としては出来るだけ永く介護を続けるが、看取り介護は困難であるとの立場を説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の含まれる記録は他と区別して、来訪者の目に触れないところに保管場所を定め、的確な管理を行っている。職員には個人情報保護法の教育をし、秘密保持を徹底し、利用者への接遇についても、言葉遣いなど、不適切なことはないように教育をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランに添って生活を支援しつつも、一人ひとりについて、その日に何をしたいかを把握してその時々を満喫できるような生活を支援している。レクリエーションや工芸などの娯楽も積極的に行っているが、参加は利用者の希望に任せている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と共に歓談しながら食事を楽しんでいる。メニューは納入業者に任せているため、希望の入る余地はないが、たまの行事や毎日のおやつでは好みの食べものを楽しんでいる。準備や片付けへの参加はもやしのひげ取り程度で、利用者は消極的である。	○	食事の準備や片付けに参加しないのは、必ずしも能力のせいではないとのことなので、具体的なやり方は職員みんなで相談しながら、できるだけ参加に導くよう、期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午後に行い、2～3人ずつ交互に、各人週に2回は入るよう、計らっている。希望すれば毎日でも入れるような態勢になっている。入浴を嫌う利用者もいるが、工夫を凝らして誘導し、必要な入浴を確保している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を考慮しながら楽しみごとを提供している。職員2名をレクリエーションの担当に任命して、各種の楽しみの機会を作っている。利用者は、毎月の行事、花見や紅葉見物の外出、外食、あるいはゲーム、音楽などを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園へ時折散歩に出かける。病院受診が多いので、散歩の機会は限られる。季節ごとに花見、紅葉見物、外食などに出かけて、戸外の空気に触れている。冬の外出は困難である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外に通じるドアはすべて施錠を外しており、利用者の不意の外出は職員の見守りと玄関のセンサーで察知し、対応している。困難な中でも、鍵をかけることの弊害を重視し、職員相互の連携を密にして、見守りに徹している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年に2回実施し、消火訓練には消防署が消防車で来訪して協力し、避難訓練には利用者も参加して行われる。運営推進会議で提起して、町内会では、災害時連絡網の中に当事業所を組み入れている。	○	夜間を想定した避難訓練を近く実施予定とのことなので、その実現と、近隣の事業所などに災害時協力が得られるよう働きかけることを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量をその都度記録し、季節や個人の体調を考慮しながら必要量を確保している。カロリー、栄養バランスは食材納入業者の管理栄養士が管理しており、随時相談できる態勢になっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を絶やすことなく、時節を感じさせる装飾や展示物、利用者の写真などが豊富に飾られ、華やいだ雰囲気が作られている。明るく広いリビングに、床暖房が設置され、心地よい生活空間が設けられている。厨房、浴室、洗面所、トイレなどいずれもゆったりしたスペースで、清潔である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく清潔で、たっぷりスペースのあるロッカーが備え付けられている。利用者はダンス、仏壇、テレビなどそれぞれ好みの調度をしつらえ、人形や写真、飾り物などで個性のある、居心地のよい居室を作っている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。